

# 前置き—国際保健とは？

- たぶん元々は World Health — WHO
- 一般的には International Health か Global Health
  - International Health Regulations (国際保健規則)
  - Japan Association for International Health (日本国際保健医療学会) 略称は JAIH でサイトは <https://jaih.jp> だった
- 21 世紀に入って Global Health が主流に
  - 人獣共通感染症に関連して One Health という考え方ともリンク
  - 国際保健医療学会も Japan Association for Global Health に英語名称を改名。略称も JAGH になりサイトも <https://jagh.or.jp/> に
- 最近では Planetary Health
  - 地球環境問題も考慮
  - ロックフェラー財団と Lancet がキャンペーン
  - Planetary Health Alliance (<https://planetaryhealthalliance.org/>)
  - 長崎大学が本気で取り組んでいる

# 国際保健学の視座

● 2 Oct. 2023, 中澤 港 <minato-nakazawa@people.kobe-u.ac.jp>

## ● 概要

- グローバリゼーション
- 国際経済格差がもたらす構造的問題
- 米国 Health People 2020 はなぜ "Global Health" をトピックの一つに挙げたのか
- 疾病構造転換
- 二重負荷
  - 都市＝農村問題
  - ライフヒストリーによって増幅される負荷
  - 人類史上の適応と近代がもたらした環境への不適応
- 三重負荷
- 文化の多様性
- 医療人類学のアプローチ

# グローバル経済の影響

- 国際保健と経済のグローバル化の関連
- 経済のグローバル化とは？
  - 世界規模の物流
  - 世界規模の金融市場
  - 国際分業による産業構造の効率化
  - 人も病原体も媒介動物も動く。環境変化とも関連。
- 途上国での問題が先進国に暮らす人々の問題にも
  - (例) 米国在住プエルトリコ人。なぜ移住するのか？
    - 経済の不均衡？
    - 高齢化による労働力不足？
  - 移住者がもたらす影響は？
    - Social Capital の変化
    - 感染症を運ぶ、感受性ホストとなる、etc.

# 援助において国際経済格差が もたらす構造的問題

- 途上国に大型構造物を作る支援は搾取になる危険。とくに有償の援助の場合、相手国は債務を負う。
- パプアニューギニアやソロモン諸島の中央病院や飛行場
  - 日本の ODA による援助
  - 受注できる企業が現地にない→日本のゼネコンが受注
  - 海外で公共事業をしていることになる
  - 最近では現地人雇用が義務付けられているが、日本人と現地人の間には大きな賃金格差(技能も違うが)。
  - できたものは現地の役に立っている
- 現地側のニーズがつかみきれずに行われた援助のひどい例(かなり前の事例だが)
  - 洪水で流れたワニの養殖場
  - 電源が無くて使われないまま埃を被った偏光顕微鏡
  - 壊れたら修理できない PCR 装置

# 適正技術の必要性

- 大事なことは、現地の人々のニーズをつかんで、適正技術による(=自力で維持管理可能)きめ細やかな(できるだけ大規模でなくて済むような)支援や協力を行うこと
- その意味で、保健医療援助でも、箱モノをつくることよりも、現地の医療スタッフを教育するような支援が重視されるようになった傾向はいいこと(不況の副産物としても)。
- もちろん、その教育が本当に現地の状況に適合したものになっているかどうかは、常にチェックする必要あり。例えばベトナムでは、保健医療情報処理の技術者教育をして人材育成しても、情報処理能力が要求される、別の部門に移ってしまうことが多いという問題がある。
- 一口に途上国と言っても、集団ごとに衛生水準や健康状態だけでなく、文化や社会制度や環境条件が異なるので、まずはその把握から始めることが必須(現地に学ぶ)  
→**世界を知ろう！！**

# 衛生水準・健康水準は 国によって全然違う

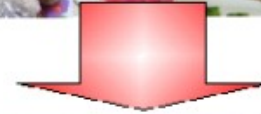
- 乳児死亡率とは、ある年の1歳未満の死亡数をその年の出生数で割って1000を掛けた値で、栄養水準や衛生水準の指標となる。
- Quiz: 2021年の乳児死亡率が高いのは各々どちら？
  - トルコ vs シリア
  - ベトナム vs タイ
  - ポーランド vs ロシア
  - パキスタン vs シエラレオネ
  - バングラデシュ vs 南アフリカ
  - USA vs スウェーデン
  - 日本 vs アイスランド
  - ブラジル vs キューバ
- 答えを見る前に少し考えてみてください

# 衛生水準・健康水準は 国によって全然違う

- Quiz (2021年の乳児死亡率が高い国)の解答  
出典: <https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.IMRT.IN?view=chart>
  - トルコ (7.7) vs シリア (18.4)
  - ベトナム (16.4) vs タイ (7.1)
  - ポーランド (3.7) vs ロシア (4.1)
  - パキスタン (52.8) vs シエラレオネ (78.3)
  - バングラデシュ (22.9) vs 南アフリカ (26.4)
  - USA (5.4) vs スウェーデン (2.0)
  - 日本 (1.7) vs アイスランド (2.1)
  - ブラジル (12.9) vs キューバ (4.0)
- 経済的には貧しくても、格差が少なく医療や教育に政策的重点を置いている国は乳児死亡率が低く、逆に経済的に豊かでも、格差が大きいと乳児死亡率は高い
- 紛争があると乳児死亡率はきわめて高い

# 多様な地域社会

- ◎ 地域社会の生活には環境条件の制約
  - ◎ 自然環境条件→自然植生→動物相→伝統的な食生活
- ◎ 経済と情報のグローバル化と低コストの物流によって、伝統的な食生活は破壊されている。ソロモン諸島の農民がラジオの宣伝で知ったラーメンを毎日1食摂ると塩分とエネルギー摂取過剰
  - ◎ 食に限らず、文化的侵略(手術で救命できるなど善意の場合もある)はグローバル化の必然的結果
  - ◎ 途上国都市部の急速な変化。ゴミ問題も。
- ◎ 異なる文化をもった人々の社会と接触するためには、自然環境、文化、言語、歴史、宗教といった情報を知っておくことは重要。ただし文献資料を信じすぎるのも危険であり、接触しながら認識を改める余地は常に残しておかねばならない。





# Healthy People 2020 の“ Global Health”

- <http://www.healthypeople.gov/2020/topicsobjectives2020/overview.aspx?topicid=16>
- 概要: 米国民の健康は、地球規模の公衆衛生への脅威やイベント(例: 2003年 SARS や 2009年 新型インフルエンザ)によって影響される。地球規模の健康改善は米国の健康を改善し、世界中の政治的安定、外交、経済成長を助け、国家及び地球規模の安全保障を支えるので、グローバルヘルスは米国民の健康の柱の一つ
- なぜグローバルヘルスが重要か?
  - ヒトの移動や商取引を含む経済活動が地球規模になってきたので、健康も地球規模で考えなくてはならない。毎年1つ以上の新興感染症があり、パンデミックへの対処能力強化が必要
  - 新興感染症を迅速に同定し制御することにより
    - 海外での保健を増進
    - その病気の国際的な広がりを防ぐ
    - 米国民の健康を守る
  - ベースは IHR 2005 : 世界の人々の移動と国際貿易への介入を最小にしながらい疾病の国際的な広がりを防ぐようにデザイン
  - 感染症に限らず、糖尿病と肥満、精神疾患、薬物濫用、喫煙(2010年には喫煙関連死が毎年510万人、WHO 予測では2030年には毎年830万人に増加)、外傷(とくに交通事故)も

# 人口転換理論と古典的3類型

- Frank Notestein (1945)「19世紀末のヨーロッパ諸国における多産多死から少産少子への変化、とくに30年間で半分という低出生化は、近代化にともなって一般的に見られる現象である」(用語は Kingsley Davis の命名)
  - 人口転換の段階論:すべての人口が高出生率・高死亡率の段階から、死亡率の先行低下段階、出生率の追従低下段階を経て、最後に低出生率・低死亡率の段階に至る (Blacker, 1947)
  - 近代化仮説:経済発展に伴う乳幼児死亡率低下、工業化、都市化、教育水準の上昇、家族変化、価値観の変化などの全般的近代化が少産動機を生みだし、出生率低下をもたらした (Notestein, 1953)
  - 出生率低下の拡散理論 (diffusion theory) :少産動機がまず都市の中産階層に育まれ、これが次第に他の階層ないし集団に拡散していった (Banks, 1954)

# 疾病構造転換 (epidemiologic transition)

- Omran (1971) の理論
- 人口転換における死亡率の低下を、死因の観点から (1) 疫病と飢餓の時代、(2) 世界的疫病後退の時代、(3) 変性疾患 (degenerative diseases) ならびに外因性疾患の時代、に3区分し、この3段階と出生力転換を組み合わせて、世界各国の人口を以下4類型に区分。
  - 古典的(西欧)モデル
    - 経済発展から疫病が後退しやがて近代医薬が進歩
  - 古典的モデルの加速型(日本, 東欧)
  - 遅滞モデル(途上国一般)
    - 先進国からの近代医薬の流入によって急速に死亡率低下
  - 遅滞モデルの転換型(出生率低下を始めた途上国)
- その後、先進国では変性疾患の死亡率も低下し始め、これを Jay S. Olshansky ら (1986) は「(4) 変性疾患停滞の時代」と呼び、発症の遅滞によってもたらされたとした。

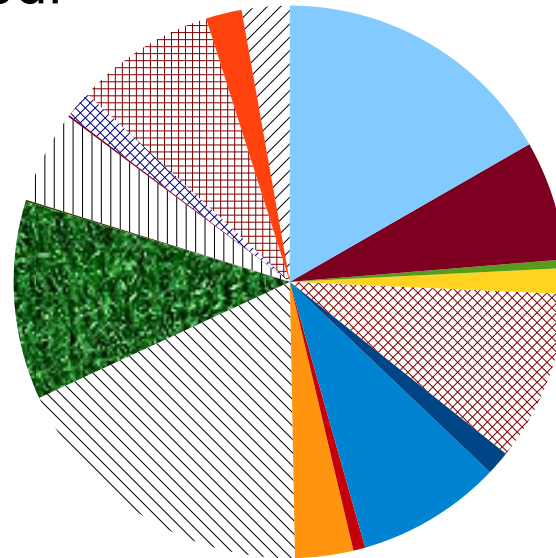
# 途上国における遅滞モデルの例と例外

- 先進国からの技術移転
  - WWII 直後の DDT 散布によるマラリア対策によって死亡率が急低下したスリランカ(ただし, 永続的でなかった)
- 遅滞モデルの多様性 ( Samuel H. Preston et al. (1974) が先進国も途上国も含めた 48 カ国 165 集団の人口について死因別死亡表を作成して分析)
  - 20 世紀の死亡率低下は 25 % が肺炎・気管支炎・インフルエンザ, 10 % は結核、10 % は下痢性疾患、14 % が他の寄生虫・感染性疾患による。19 世紀ヨーロッパとは死因構造が全く違う国がある。  
→ 国や時代によって死亡転換の様相が多様。
  - 平均寿命と1人あたり国民所得の関連を見ると、時代を問わず、少なくとも低所得国で強い正の相関あり
    - <https://www.gapminder.org/world/> を使えば一目瞭然
  - 後世ほど同一所得水準で期待される平均寿命が長くなる
    - 1930 年代から 60 年代にかけての寿命の伸びを1人当たり所得の伸びとそれ以外に分けて寄与率をみると, 所得の伸びの寄与は 10-25 %
    - それ以外の 75-90% は保健医療の技術移転, 識字率, エネルギー消費量, 所得分配の不均等度などの影響
- (例外) 紛争が起こると健康水準は改善しない。パキスタン、シリア等

# 遅滞モデルから二重負荷へ

- 途上国の死因は必ずしも転換しない!!
- 感染症が残ったまま慢性疾患も増加するデータが出てきた
- WHO "The World Health Report 1999" (WHR1999) Chapter 2 "The double burden: emerging epidemics and persistent problems"
  - [http://www.who.int/whr/1999/en/whr99\\_ch2\\_en.pdf](http://www.who.int/whr/1999/en/whr99_ch2_en.pdf)
- [http://www.who.int/macrohealth/action/NCMH\\_Burden%20of%20disease\\_%2829%20Sep%202005%29.pdf](http://www.who.int/macrohealth/action/NCMH_Burden%20of%20disease_%2829%20Sep%202005%29.pdf)

インドにおける2005年の疾病負荷 (DALYs) の内訳



- 斜線 結核
- 赤 HIV/AIDS
- 井 下痢
- × マラリア等, 媒介動物が伝播する感染症
- らい病
- || 子供の病気
- 中耳炎
- 周産期の疾病
- 〳 その他感染症や周産期の疾病
- がん
- 糖尿病
- 精神疾患
- 失明
- × 心疾患
- COPDと喘息
- 口腔の疾患
- その他非感染症
- 外傷

# 途上国における二重負荷の原因

- 感染症がなくならないまま、非感染症(慢性疾患)も増加  
= 二重負荷(都市部での事故や犯罪による外傷を入れると三重負荷)
- 格差の増大(都市域拡大、都鄙移住、農村部の生活変容)により、貧しい人は二重負荷(農村部では野草や野菜を自給でき、活動量も多いが、都市に出ると野菜や果物が高価なため、安い栄養バランスの悪い、炭水化物に偏った食事になり、かつ不衛生な生活環境)、富裕層は過食による肥満や慢性疾患に
- 感染症対策の限界:天然痘はヒト以外にリザーバーがなく、有効なワクチンを全世界で接種できたので根絶できたが、他は悉く失敗(ポリオは成功近い?)
  - マラリア:殺虫剤耐性蚊やクロロキン耐性原虫の出現
  - インフルエンザ:鶏やブタなどのリザーバーと突然変異
  - 新興/再興感染症の構造的維持
  - COVID-19:政策によって被害に大きな差が出たが、現在「大炎上」中
- 胎児期や乳幼児期に低栄養だと、エネルギー消費が少ない遺伝子発現が増え(epigenetics)、成長してから、普通に食べても肥満しやすくなる「儉約表現型」(Barker 仮説)
- 途上国の原住民は、エネルギー摂取が低くても生きていける、儉約遺伝子型をもっている可能性があり(cf. ピマインディアン等)、少し摂取エネルギーが増えると肥満や慢性疾患ハイリスク \* 但し最近では遺伝子研究が倫理的に困難

# 途上国における貧富の格差の影響 (データソース: WHR1999)

国	絶対 貧困 者の 割合	1990年頃の人口1000当たり死亡率				1990年頃の結核有病割合 (/10000)	
		5歳未満女児		15～59歳女性		非貧困者	貧困者 の倍率
		非貧困者	貧困者 の倍率	非貧困者	貧困者 の倍率		
チリ	15	7	8.3	34	12.3	2	8.0
中国	22	28	6.6	35	11.0	13	3.8
エクアドル	8	45	4.9	107	4.4	25	1.8
インド	53	40	4.3	84	3.7	28	2.5
ケニア	50	41	3.8	131	3.8	20	2.6
マレーシア	6	10	15.0	99	5.1	13	3.2

# 人類の進化と儉約遺伝子型

## ● 現生人類の進化

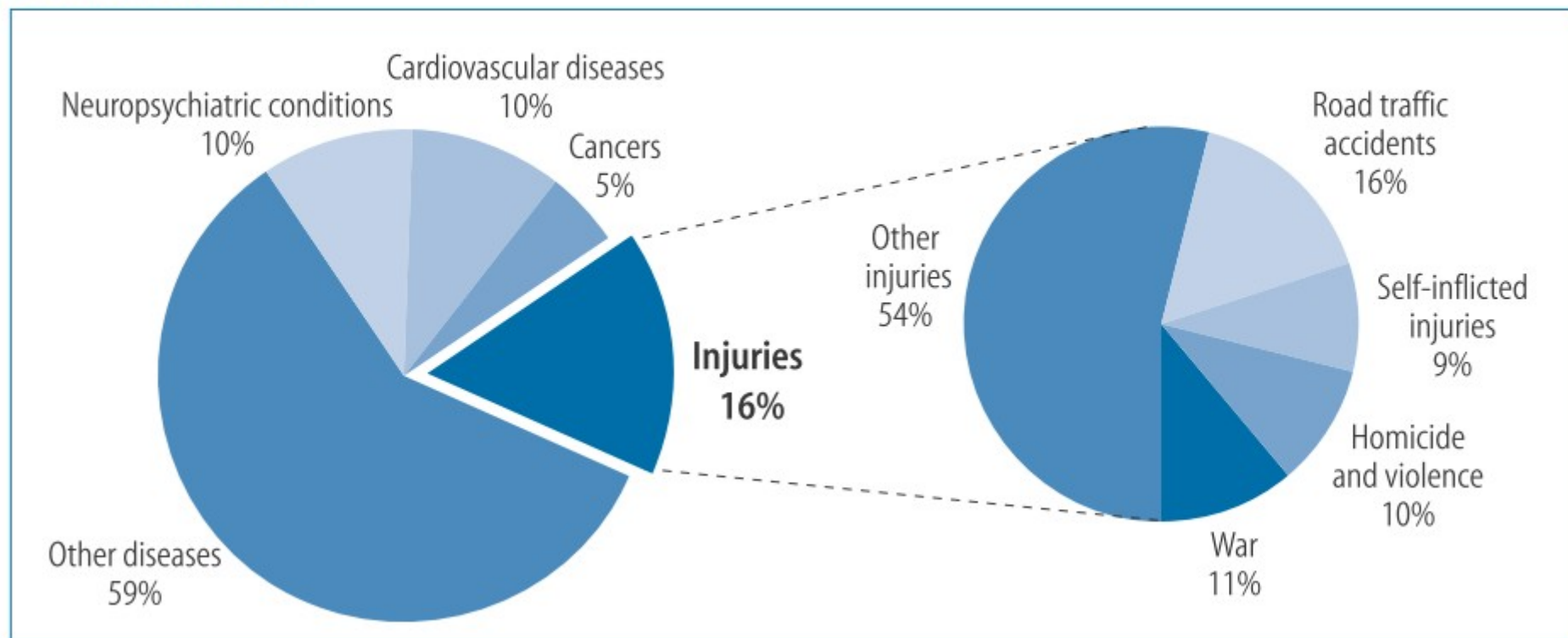
- アフリカ単一起源説(キャン, ウィルソンら): 現生人類の DNA から集団遺伝学者提唱。現生人類は 20 万年～数万年前に出アフリカした *Homo erectus* の子孫。原人や旧人は絶滅。
- 多地域進化説(ソーン, ウォルポフら): 化石を材料とする古生物学者が提唱。100 万年以上前に出た *Homo erectus* も生残, 各地で混血が進んだ。
- いずれにせよ現生人類は1つの種。科学技術や物質的豊かさの違いは居住環境がもたらした偶然に過ぎない( cf. ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』)。
- 南北アメリカ大陸や太平洋諸島の原住民は何万年か前に拡散する途中、低い気温と乏しい食事に耐えて生き延びた
  - 南北アメリカ大陸の原住民はベーリング陸橋の無氷回廊を歩いた
  - 太平洋諸島の原住民はカヌーで太平洋の遠洋航海をした
- そのため、これらの人々は儉約遺伝子型をもっていて、白人なみにエネルギー摂取してしまうと生活習慣病になりやすい



# 都市部では外傷を含めた三重負荷

Source: WHR1999

Figure 2.3 The emerging challenges: DALYs attributable to injuries in low and middle income countries, estimates for 1998



Source: Annex Table 3

# 文化の多様性

- 国際保健医療の援助や協力において、文化の多様性を踏まえることは必須（文化的侵略はライフスタイルを大きく変え、社会を崩壊させる可能性がある）
- 伝統と近代
  - 近代は多様な伝統文化を一様化・均質化した
  - PNG やソロモン諸島の村人がインスタントラーメンを食べる
- 移住者における出身地と現住地の文化の違い
  - 日系ハワイ人：高脂質高エネルギーな食事と高血圧
  - 世界中で華僑が作る China town
  - 在日外国人（韓国，中国，ブラジル，...）：食物だけではない，多種多様な独特な文化を維持

# 健康や病気の文化・社会性

## ● Disease と Sickness と Illness

- Disease : 客観的な(=世界中どこの誰にでも同じように定義できる)病気。国際疾病分類で分類される
- Sickness : 社会が病気と認めている状態。統合失調症の人は現代社会では病気だが, 伝統社会ではシャーマンになれるかもしれない(カルト宗教指導者も?)。
- Illness : 自分が具合が悪い状態。明確な機能的／器質的問題がなくても, 具合が悪いと自覚していたら ill。
- メキシコの "*caida de mollera*" (落ち窪んだ泉門)は乳児を早く断乳させすぎたり落としたり叩いたりしたせいで起こると信じられている。ヘルスケア専門家は文化的信仰と片付けがちだが, 実は重度の脱水で起こる。伝統薬処方には反応しないが, 親は医療を求めない。

# 病気への文化的適応とその破綻

- 精神疾患や加齢に伴う変性疾患を病気と見なさない文化
  - 近代医療が入って初めて病気と見なされる
- マラリアへの文化適応  
[<https://minato.sip21c.org/malaria.pdf>]
  - 地中海に浮かぶサルディーニャ島の伝統的逆移牧パターンと妊婦の行動タブー
  - アフリカのマラリア流行地で家の中で牛糞を燃やす習慣
  - ビターキャッサバ摂取と鎌形赤血球貧血／フェイバ豆摂取とグルコース 6 リン酸脱水素酵素 (G6PD) 欠損
  - 貯蔵鉄があるのに血清鉄濃度が低く、先進国の基準では貧血な人々「低鉄血症適応仮説」
- 文化的適応の破綻
  - 給食マラリア、定住地での大流行、タブー消失に伴う流行

# 伝統医療と近代医療

- 伝統医療と近代医療は、多くの場合、使い分けられている
  - Native American の健康概念では、健康は body 、 mind 、 soul 、 heart のバランスがとれていること
  - Illness はこれらのバランスが崩れた結果
  - 治療は症状への対処だけではなく、その根っこにあるバランス回復が必要 ( mind 、 soul 、 heart を癒す )
  - この概念は近代医療と矛盾しない
    - 「白人の病気」は医者に診せるが、同時に伝統医にも mind 、 soul 、 heart のバランスを見て貰う
    - 伝統医による社会的認知が重要
- PNG など多くの途上国では、伝統医療 ( 薬草利用や呪術等 ) で治らなかつたら医師に診せるという病気が多い

# PNG ギデラの伝統医療とその変容

- 1980年代の研究
  - 多種多様な薬用植物が使われていた
  - 広く瀉血が行われていた。頭痛への対処で額を切る等
  - 病気の原因として悪い精霊と黒魔術が信じられていた
- 2013年の研究結果
  - 薬用植物は使われているが種類は変化
  - マラリアは病院の薬で治療
  - 白内障は首都で手術
  - 眠れないなど治らないときは黒魔術
  - 頭痛で額を切る瀉血は残存、他の部位はほぼ消滅。貝殻でなくカミソリなどに
- 変化はするが変わらない部分もある
- 病気によって違うし人によっても違う



# レポート課題（中澤出題分）

- 国際保健活動において文化の多様性への配慮がなぜ重要かについて考察し、A4で2枚程度でまとめ、pdf形式のファイルとしてBEEFPLUSで提出してください。
- 文献（学術論文または書籍を元にする）から具体的な事例（例えば、マラリア予防のために蚊帳を配っても、蚊帳の中で眠る習慣がない人には息苦しいと使われず、魚を干す用途に転用されてしまった例など）を探し、それを引用しながら自分の考えを展開してください。
- BEEFPLUSに掲載してあるガイドラインに従って作成してください。